日本共産党の地域新聞　発行所：日本共産党夕張市委員会　夕張市千代田２番地の１　TEL &FAX　52-3097　215年７月19日（日）1505号（1）

民報 ゆうばり

「わたしたちは戦わない！」大集会

猛暑の中、6000人を超える参加！

20歳から89歳まで、夕張から17名が参加！

11日、北海道弁護士連合会が呼びかけた「わたしたちは戦かわない！」大集会に、夕張から17名が参加しました。

夕張労連・新婦人夕張支部・ゆうばり女性9条の会が市民に参加を訴え、署名とカンパ募金も広がりました。

気温30度を超えるなか、会場の中島公園に6000人を超える参加者が集まりました。

日本弁護士連合会が「私たちは、法律家集団として、立憲主義を堅持する立場から、閣議決定や法律改正により政府解釈を変更し、集団的自衛権の行使を容認することに反対します。」と声明。

ながぁ～いパレード 札幌繁華街を歩く！

次に、先週、札幌での若者集会を呼びかけた青年が、会場で「戦争に行かされるのは、絶対に嫌だ」と若者の心情を訴えました。

さらに、元自衛官、宗教者、憲法学者らが発言。

各政党からのあいさつもあり、共産党紙智子参議院が「戦争立法」に反対の大きなうねりが全国で一斉に上がっていることを紹介しました。

『私たちは戦わない！』黄色色紙が参加者の手で会場にあふれました。

その後のパレードは、長い列になり、「戦争してたら、笑ってられない！」「戦争しないで、未来を守ろう！」ラップ調で、札幌市民にアピールした。

応援の声や、携帯で写真を撮る人など、反響が広がりました。

夕張から午前11時に出発、午後7時過ぎに戻りました。

夕張市内の「戦争立法」反対の署名数は、現在で500筆を超えています。

市内からの参加者は「自民・公明政府は、数の力で採決をしようとしています。国民の声を無視する現政府に、国政を未来の日本を任せてよいのでしょうか。『戦争立法反対！』の声で、署名用紙の山を積み上げ、廃案に追い込みましょう』と話していました。

激励に駆けつけた、紙参議員議員・はたやま衆議員議員・森つねと氏

第58回「北海道母親大会」開催 1700人を超える参加者で！

12日（日）札幌市教育文化会館で『北海道母親大会』が開催されました。

午前中は8分科会と特別分科会に分かれて学習を深めました。

特別分科会は、ドキュメンタリー映画「沖縄・辺野古圧殺の海」の上映でした。

現地でたたかう市民たちと森の映画社が協力して作り上げた映画です。

警察・機動隊・海上保安庁を前面に立てて、反対する人たちを力ずくでおさえ込みながら、工事を進める日本政府の問答無用の姿が記録されているものであり、会場には、いかりの悲鳴、そして沖縄のおじい、おばぁの粘り強さに感動の声が流れました。

午後からは、記念講演「女の平和、情熱の赤で戦争ノー」と題して、元中央大学教授・教育心理学者の横湯園子さんのお話でした。

横湯さんは、平和への流れを確認し合う1・17国会ヒューマンチェーンの提唱者です。

アイスランドの女性たちが赤いストッキングを身につけて古い因習を打ち破ろうと闘った史実に思いを重ねて、赤いものを身につけて集会を開いています。

今や、レッドアクションとして運動は

（裏面へ続く）

広がり、今回の母親大会の参加者も、思い思いの赤を身にまとっておりました。

また、横湯さんは、人間性が無視され、不適応を起こしている子どもや青年の多い今、神経症の増大は戦争前夜の兆候だと言っていた恩師である元軍医の話しが思い出されるとも話されておりました。

戦争法案廃止のためには、更なる運動の広がりが必要であると講演をむすびました。

戦争法案廃止！
戦争する総理はいらない！　とシュプレヒコール

夕張からは11人が参加。集会後、もと、夕張在住の会員も交えて記念のパチリ！

くずさんの夕張歴史散歩（30）

夕張炭鉱　災害相次ぐ

折からの日露戦争は、石炭需要を高め一層の出炭増加を要請します。炭鉱会社も、日清戦争時もそうであったように、利益拡大の絶好の機会ととらえ出炭増加に走ります。

一方、増産のため乱堀に次ぐ乱堀は坑内の通気を一層悪化させ、発破の際のガス対策（当時のガス検知器はカナリヤでした）も着衣であおいで吹き払うという、原始的な方法＊でしかありませんでした。その結果は、

１９０１年（明治34年）２月14日、第一斜坑で死者19人負傷者８人。

１９０４年（明治37年）７月４日、第二斜坑で死者18人負傷者１人（この時、労働至誠会創立当初からの会員「上田武市」「仲倉仲太郎」の両名が犠牲になる）。

つづいて、同年11月16日、同じく第二斜坑で、死者３人負傷者23人。

翌１９０５年（明治38年）１月６日には、再び第二斜坑で死者36人負傷者10人を出すという、これまでにない規模の大災害が発生します。

いずれもガス爆発という悲惨な災害でした。

深まる不安と動揺

地底の闇の中で働く坑夫たちは、命の危険を目のあたりにし深まる不安と動揺は大きなものがあります。加えて戦争は急激な物価高を招き、炭鉱での日々の生活にも特別な負担がかかってきました。

こうして、明治38年の炭鉱争議が火ぶたを切るのです。

＊１９８１年（昭和56年）頃の夕張の炭鉱では、ガス警報器が作動し鳴り出すと、その周りに圧搾空気を吹き付けてガスを払い飛ばし警告音を停めたり、警報器の数値を変える工作をしたといいます。明治時代と少しも変わっていない現代がありました。

戦争法案強行許さず廃案に

紙智子「国会かけある記」
日本共産党参議院議員
紙　ともこ

「私たちは、戦わない！」六〇〇〇人ものプラカード、黄色一色に染まった中島公園は圧巻でした。炎天下、気温はぐんぐん上昇。午後二時過ぎには、ピークに達しました。

北海道弁護士連合会、旭川、釧路、札幌、函館など各地の弁護士会が主催する初めての試みです。連合北海道や道労連傘下の労働者はじめ、市民にも広がる画期的な取り組みとなりました。二週間前に「戦争がしたくなくてふるえる」とデモをした青年たちも参加。宗教者や学者、元自衛官がスピーチ。政党は、民主党、社民党、新社会党が参加。日本共産党は、はたやま和也さんと私が訴えました。

弁護士会は、昨年七月一日の集団的自衛権の行使容認の閣議決定に対し、立憲主義および憲法九条に違反するとの声明を出し、政府に撤回を求めました。

戦争法案についても、憲法違反の法案だと反対運動に取り組んできました。「私たち弁護士・弁護士会は、『基本的人権を擁護し、社会正義を実現すること』を使命とし『法律制度の改善』（改悪には反対）への努力が責務とされています。それ故に・・・反対の意見表明をし、広く市民の皆様に、政府・国会（議員）に訴えてきました、皆さんも参加してください！」と呼びかけながら行進しました。

衆議院で中央公聴会が開かれました。安倍総理は、「時間がくれば決めてほしい」と言っています。憲法違反は許さない。採決強行許さない国民総ぐるみの運動に広げ、廃案にさせましょう！